

今年お世話になったレフェリーの方々 (1991年)

青木 孝	井上 君夫	岩崎 俊樹	上田 博	宇加治一雄	大滝 章義	大野 久雄	小佐野慎悟
乙部 弘隆	加藤 政勝	木村富士男	木本 昌秀	黒田 友二	倉嶋 厚	小泉 耕	児玉 安正
古藤田一雄	近藤 純正	榊原 均	佐久間弘文	迫田 優一	里村 雄彦	清水 喜允	志村 英洋
小司 禎教	鈴木 栄一	鈴木 和史	高橋 俊二	高橋 劭	高藪 出	谷 誠	辻村 豊
土田 信一	土屋 喬	坪木 和久	鶴田 治雄	露木 義	仲野 貢	饒村 曜	根本 順吉
野田 彰	萩野谷成徳	林田佐智子	早坂 志裕	花輪 公雄	櫃間 道夫	福山 薫	藤部 文昭
増田 耕一	松本 淳	松本 誠一	三角 幸夫	道本光一郎	向田 廣志	守田 治	文字 信貴
安成 哲三	山岸米二郎	山田 道夫	吉門 洋	吉川 友章	米谷 恒春		(敬称略)

編集後記： 秋季気象学会の直前に中国から戻ってきました。日中共同研究の一環として、ここ一年半の間に5回訪中し、ゴビ砂漠とオアシスで延べ4ヵ月観測を行ってきました。毎日観測し、その日のことを日記に書き留めます。電話がないのは精神的に良かったです。1日に1つのことをするのが中国流で、日本に帰ると中国ボケしたのではないかと家族が心配します。そのまま、名古屋で開催された秋季気象学会に参加。気象庁と比べると、名古屋国際会議場は素晴らしい。どの会場も100人近くの人を収容できるし、OHP・スライド・ビデオの設備も完備している。学会で最も重要なことは、図と表をハッキリと表示できる機器、そして参加者を収容するスペース。満点に近いが、休憩室がなかったのがやや不満である。私は人の話を長時間聞くのが苦手なので、よく休憩室を利用する。休憩室で久しぶりにあった友人と話をするのは、学会の楽しみの一つである。

本来の編集の話に戻そう。毎月1回、編集委員会が気象庁で開催される。投稿論文は回覧の後、編集委員が手を挙げて、担当者が決まる。誰も手を挙げないときは、編集委員長が指名する。担当論文の原稿がきれいなときは、しめたと思う。論文の内容に専念できるからだ。図や表が汚い原稿は、完成度の低い論文が多い。

文章の良し悪しは文才によるところが大きいですが、図は努力次第で確実に良くなる。「天気」は2段組なので、刷り上がりの図の大きさは、横幅7cmと14cmの2種類しかない。原因と刷り上がりの幅で縮小率が決まる。適切な縮小率を決める際、役立つ経験則が「2mmの法則」である。図中の文字や数字の大きさは2mmがベストで、スマートに見える。3mmだと不格好だし、1mmだと小さい。この経験則は驚くほどよく当たる。

最近、ロータス等のパソコン・ソフトを用いて、24ドットのプリンターで作図したものをよく見かける。私はあまり好きではない。刷り上がりが良くないからだ。インクリボンの薄いものはロットリングでトレースしなおした方がよいと思われるものがある。また、レーザープリンターで書いた等値線も細くて、原図に適さないものがある。

私は、図がきれいでも、適切な引用がしてある論文が好きである。適切な引用により、従来の研究でどこまでやられていて、何がまだ未解決であるかという点がはっきりしてくるからだ。気象学会には気象集誌という専門誌があるが、天気の論文も完成度の高いものをめざしたい。

(甲斐憲次)